

イギリス、世界の海洋に流出しているマイクロビーズ含有製品の販売禁止へ

2018年6月19日、英環境・食品・農村地域省はマイクロビーズ（極小プラスチック粒子）を含有する製品の販売禁止を発表した。海洋環境に流入するこれらの有害なプラスチックを防ぐため政府の世界的な取り組みの一環として、同日から施行された。

これによって、イングランドとスコットランドの小売業者は、洗剤、石鹸、練り歯磨き、シャワージェルなどの製品に添加される極小のプラスチック粒子のマイクロビーズを含有する化粧品やパーソナルケア製品の販売が禁止されたことになる。

1回のシャワー時に使うシャワージェルだけで下水道を経由して海洋に10万個のマイクロビーズを海に排出することになり、海洋生物に深刻な害を及ぼすと考えられている。世界で最も厳しい規制を実施したことで、毎年何百億や何兆個のマイクロビーズが海洋に浮かんでくるのを防ぐことができる。

環境大臣のマイケル・ゴープは、「マイクロビーズは小さいかもしれませんが、海の生き物にとって致命的であり、まったく不必要なものである。我々はプラスチックの有害な部分の海洋への排出を禁止する法的な方法を導いたが、これは決して我々の戦いの終わりではなく始まりである。我々は今、デポジット計画と言うペットボトルのような他の有害なプラスチックを店舗に戻した場合、購入時に上乗せされていたプラスチック回収費を返金する制度を大きく広げる計画である。」と、話している。

今回の発表は、本年1月に発表したマイクロビーズになりうるプラスチック製品の製造を禁止する施策に続くものである。

政府が一昨年から行っているプラスチック製ショッピングバックの有料化（5ペンス/袋、約8円/袋）と、最近の提案ではペットボトルのデポジット返還計画や、プラスチック製のストロー、スターラー、プラスチック製の綿棒等も販売禁止の対象となる。

これはまた、一回限り使用のプラスチック廃棄物を排除するための25年環境計画の一部を構成しており、財務省の税制の変更も並行して行う考えである。

マイクロビーズの禁止が始まった現在、政府は他のマイクロプラスチックソースが海洋環境にどのように侵入しているかを探っている。先月、プリマスの大学の科学者たちは、タイヤなどの小さなプラスチック粒子、ポリエステルのような合成材料、ネット、ロープ、ラインなどの漁具が海洋にどのようにして入るのかを探るためのプロジェクトを開始して

おり、政府も予算措置について確約している。

政府は、今年初めに英連邦清浄海洋連合（Commonwealth Clean Oceans Alliance）を立ち上げ、一回使用のプラスチックを排除し、連邦全体で海洋プラスチック汚染の削減に取り組む姿勢を明らかにしている。英連邦加盟国が、マイクロビーズの禁止や避けられていないプラスチック廃棄物の除去をコミットすることは、全ての英連邦加盟国の海岸線の長さは超長大で、世界のマイクロビーズ海洋汚染の清浄に多大な貢献が期待される。

英海洋保全協会の上級汚染政策担当者、スー・キンゼイ博士は次のように述べている。「この堅牢なマイクロビーズの禁止が発効したことを大変うれしく思っている。これは今までに世界で制定された最も強力かつ最も包括的な禁止であり、海洋へのマイクロプラスチックの流れを止めるのに役立つであろう。我々は、英政府が海と砂浜をきれいにするという真のコミットメントを示していると信じている。そして、我々は、プラスチック廃棄物と戦うためのさらなる行動を起こして行きたい。」

日本政府の本件に関する取り組みは、海洋大国の割には、まだまだ手ぬるい感がする。まずはプラスチックバックの有料化からスタートし、段階的にマイクロビーズ含有製品の販売禁止へと踏み出すべきだと思う。英国で出来て、日本で出来ない理由はないと考える。
(了)